昭和の地名をたずねて(10)
長者久保(窪)
谷あいに開かれた集落か！

長者久保は、霊峰赤城山の北西麓に位置し、谷あいに開かれた集落である。諸説あるが地勢学の観点で見れば長い谷あいの久保(窪)ではなかろうか。

人類の歴史の中で水は必要不可欠であり、湧水が出るところに住居ができた。長者久保では石器や土器が出土し、大昔から住んでいたのである。江戸時代から組頭など村役人を糸井と別に決め、一村として集落形成をしていた。糸井村、長者久保村の二村に分かれた時もあったが、明治七年、再び一村となる。

江戸時代の長者久保集落十六軒のうち、十二軒は上糸井長慶寺の檀家(だんか)、二軒は橡久保自性院の檀家、二軒は森下遍照寺の檀家であったことから、森下や橡久保から移住してきたことを示している。

長者久保の遍歴は、慶長年間(一五九六～一六一五)前橋藩酒井氏領、寛延二年(一七四九)前橋藩松平氏領、明和四年(一七六七)幕府領、嘉永二年(一八四九)川越松平氏領。明治に入り、前橋県、群馬県を経て同六年熊谷県に所属。同七年糸井村の一部となる。

過去、長者久保集落は、昭和二十二年九月に発生したカスリン台風の被害にあっている。年間降雨量の三分の一を超す大雨が十三日からたった三日間で降り、土砂の流出や室渕川の氾濫が起こった。死者七名、百軒におよぶ家屋流失など甚大な被害であった。災害はいつやってくるかわからない。日々の備えをしておくべきであると思う。

被害を受け、ほとんどの人が上の大地に移住し、その後、農業が盛んな村としての一翼を担った。現在は、望郷ラインが開通し、田園風景を見渡せて活気を呈している。



▲望郷ラインに架かる
完成当時の長者久保橋

参考・協力
糸之瀬村誌、沼田市図書館等

昭和村ボランティアガイドの会
会長　倉澤　俊雄

地域包括支援センターだより

介護保険サービスについて

地域包括支援センターでは、高齢者の皆さんがいつまでも住み慣れた地域で生活できるよう、さまざまな困りごとの相談を受けています。

サービス利用までの４ステップ

❶包括支援センターに相談する



❷介護保険の申請



❸ケアプランの作成



❹サービスの利用開始



こんなときご利用ください



外出や人と話す機会が少なくなった。
自宅での入浴が不安。



泊まりで出かけたいけれど、親を一人で家に残すのは心配。



足の筋肉が落ちてきたのか、ちょっとした段差でも転びそうになる。

＜デイサービス＞
食事・入浴・運動などの支援が受けられます。



＜ショートステイ＞
施設に短期入所して、食事・入浴が受けられます。



＜福祉用具のレンタル、住宅改修＞
歩行器のレンタル、住宅改修費の助成が受けられます。
＜通所リハビリテーション＞
介護や機能訓練が日帰りで受けられます。



問合せ　地域包括支援センター　☎３０－２１２１